

平成28年度

## 生活科・総合授業づくり講座

山形市理科教育センター

### 【研修の流れ】

14:30～15:00

探究的な生活科の授業づくりに向けて

15:00～16:20

「(6)自然や物を使った遊び」における  
探究的な生活科の授業ワークショップ

16:20～

各グループからの発表

16:50～

ふり返り

「生活・総合的な学習の時間ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」より

- 生活科は、平成元年の学習指導要領改訂において、小学校低学年に新設された教科である。これまで、児童の生活圏を学習の対象や場とし、それらと直接関わる活動や体験を重視し、具体的な活動や体験の中で様々な気づきを得て、自立への基礎を養うことをねらいにしてきた。
- 平成20年の改訂では、活動や体験を一層重視するとともに、気づきの質を高めること、幼児教育との連携を図ることなどについて充実を図ってきた。

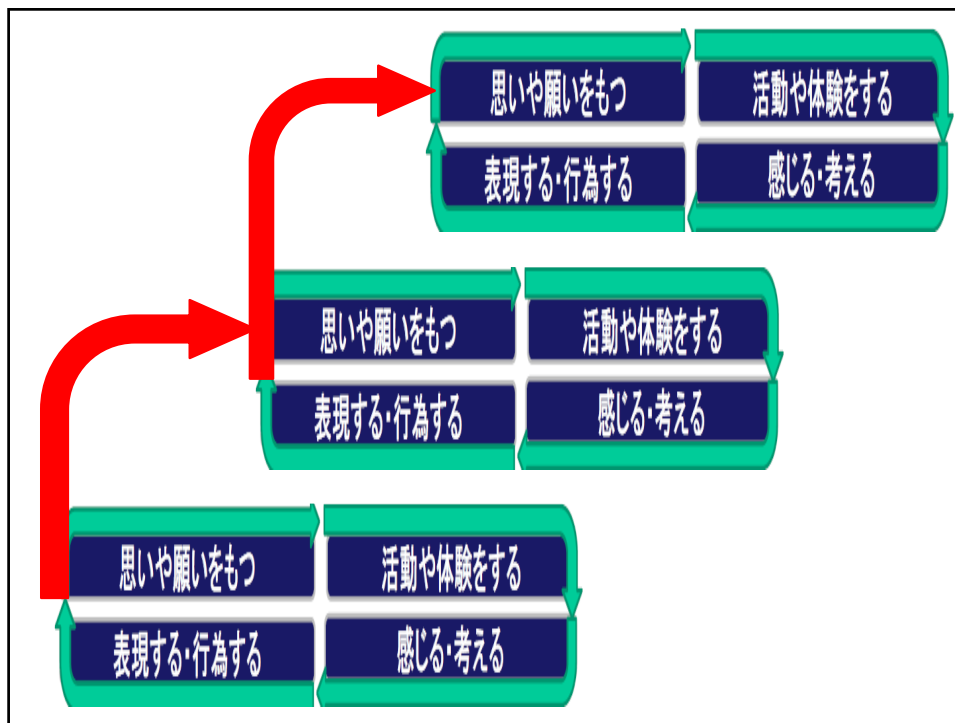
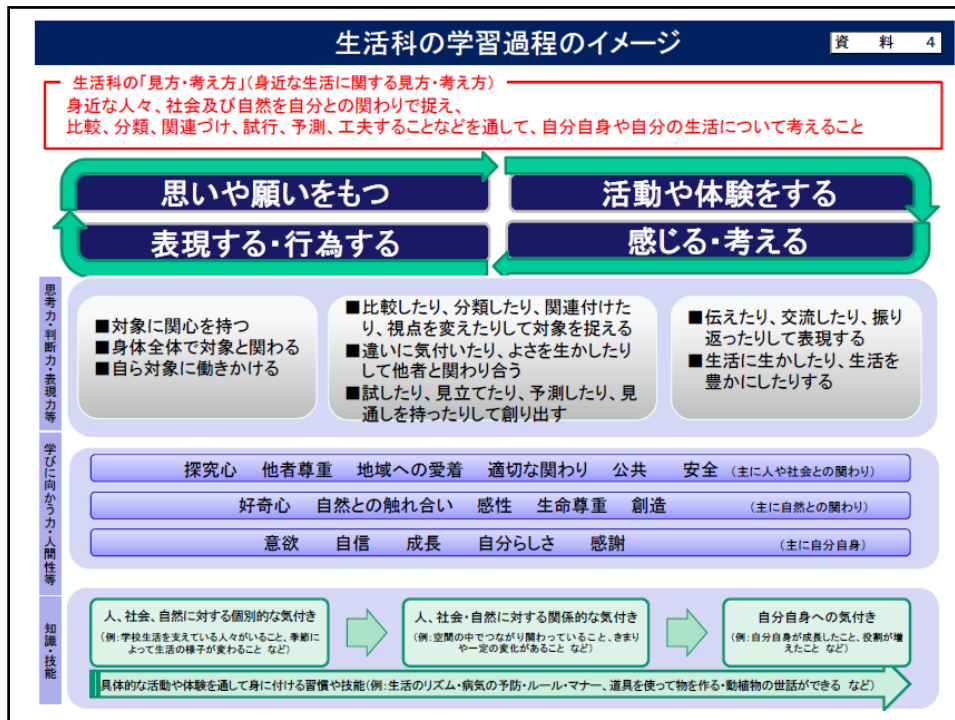
「生活・総合的な学習の時間ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」より

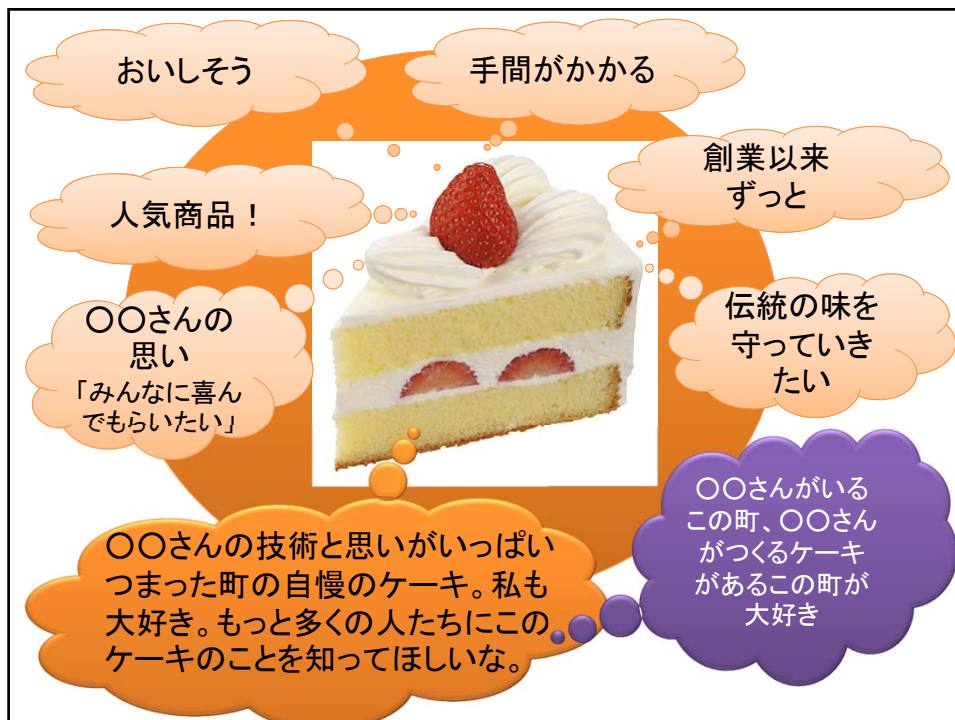
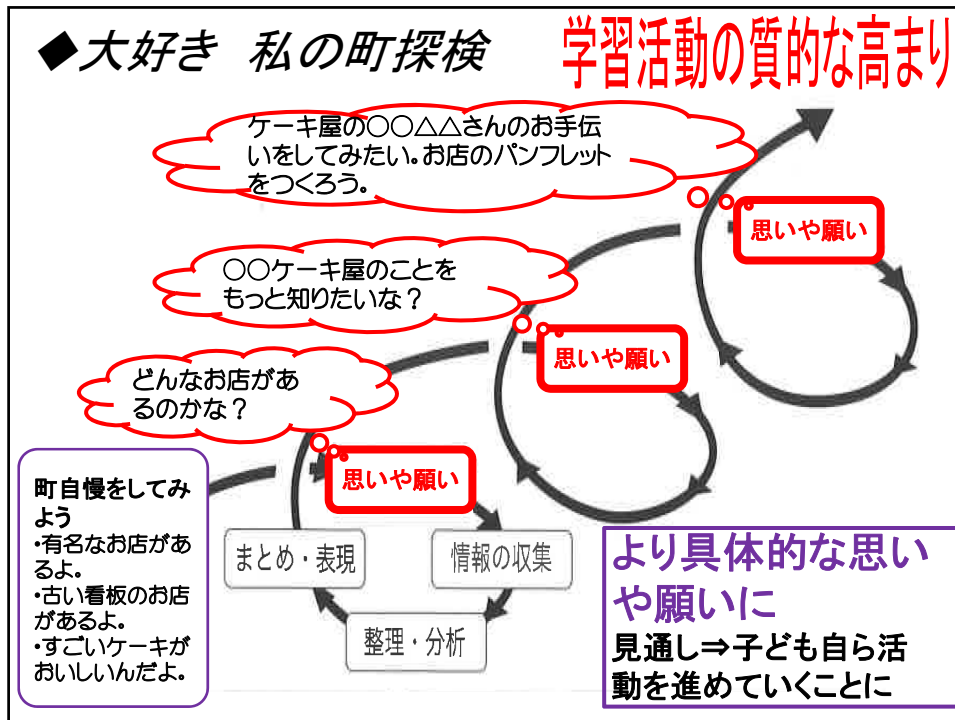
【成果】

身近な人々、社会及び自然等と直接関わることや気付いたことや楽しかったことなどを表現する活動を大切にすることなどの学習活動が行われてきており、言葉と体験を重視してきた前回改訂の趣旨が概ね反映されているものと考えることができる。自分自身や自分の生活について考えさせることや他教科等との関連を図ること、保護者、地域にいる人々などの協力を得ることなどについても積極的に取り組もうとしている。

【課題】

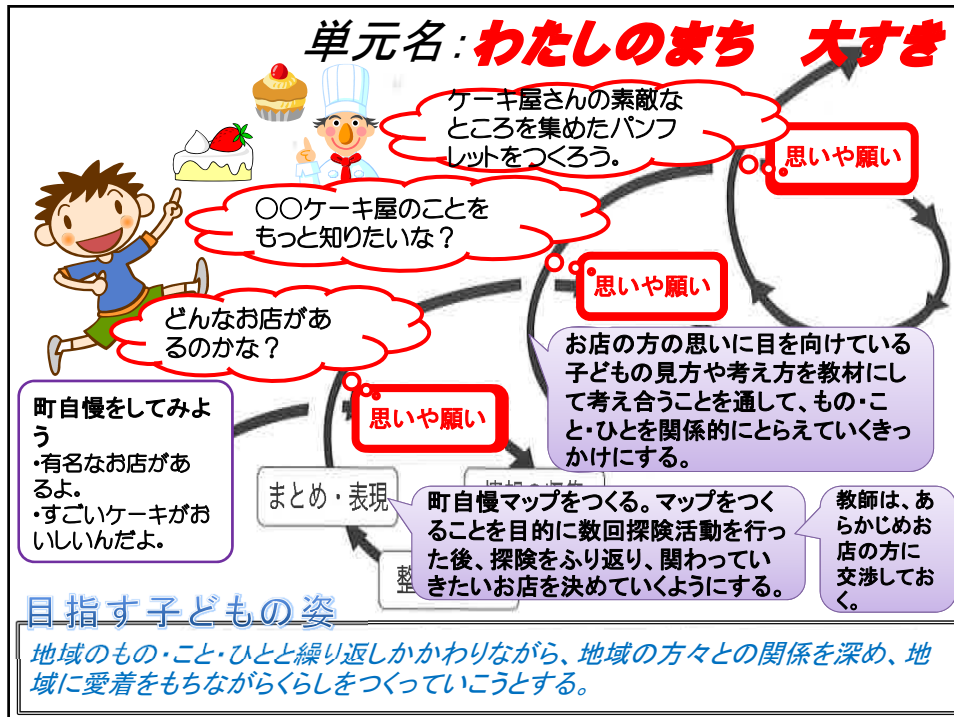
活動や体験を行うことで低学年らしい思考や認識を確かに育成し、次の活動へとつなげる学習活動を重視することである。これまでも生活科においては、「活動あって学びなし」との批判が繰り返されてきた。前回改訂において、気づきの質を高めることが示され改善の方向に向かいつつあるものの、具体的な活動を通して、どのような思考力等が発揮されるのかなどについて十分に検討する必要がある。





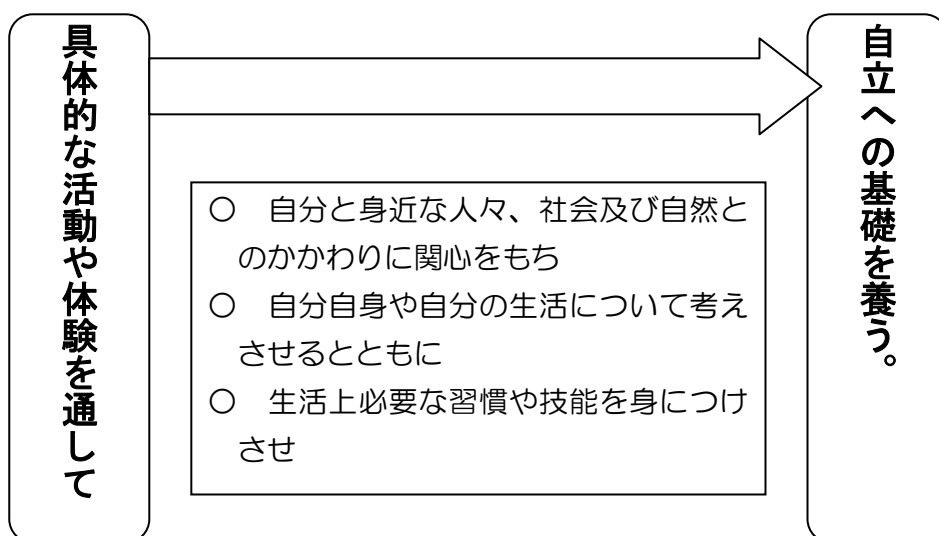
## 「(6)自然や物を使った遊び」における 探究的な生活科の授業ワークショップ

- 教科書の分析
- グループでの単元構想
  - ・ 単元の導入
  - ・ 子どもの思いや願いの質の高まり
  - ・ そのための手立て
  - ・ 単元で身に付けさせたい力や  
目指す子どもの姿
  - ・ 単元名 など



【資料】

◆ 生活科の目標



◆ 生活科の学年の目標

(1) 主に自分と人や社会事象とのかかわりに関すること

自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などのかかわりに関心を持ち、地域のよさに気づき、愛着をもつことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようにする。

(2) 主に自分と自然事象とのかかわりに関すること

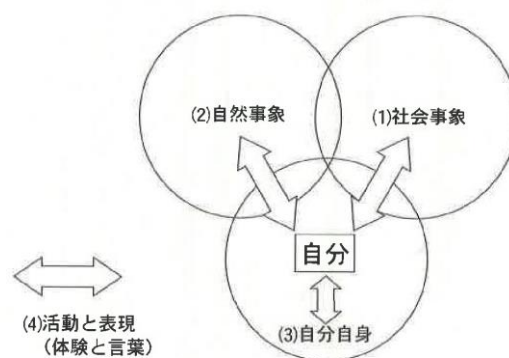
自分と身近な動物や植物などの自然とのかかわりに関心を持ち、自然の素晴らしさに気づき、自然を大切にしたり、自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができるようにする。

(3) 主に自分自身に関すること

身近な人々、社会及び自然とのかかわりを深めることを通して、自分のよさや可能性に気づき、意欲と自信をもって生活することができるようにする。

(4) 生活科特有の学び方に関すること

身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気づいたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇などの方法により表現し、考えることができるようにする。



階層	内容	学習対象・学習活動	思考・認識等	能力・態度等
自分自身の生活や成長に関する内容	(9) 自分の成長	■自分自身の成長をふり返る。	■多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどがわかる。	■これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができる。
自らの生活を豊かにしていくために低学年の時期に体験させておきたい活動に関する内容	(8) 生活や出来事の流れ	■自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行う。	■身近な人々とかかわることの楽しさがわかる。	■進んで交流することができる。
	(7) 動植物の飼育・栽培	■動物を飼ったり植物を育てたりする。	■それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づく。	■生き物への親しみをもち、大切にすることができる。
	(6) 自然や物を使った遊び	■身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくる。	■その面白さや自然の不思議さに気づく。	■みんなで遊びを楽しむことができる。
	(5) 季節の変化と生活	■身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどする。	■四季の変化や季節によって生活の様子が変わることなどに気づく。	■自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできる。
	(4) 公共物や公共施設の利用	■公共物や公共施設を利用する。	■身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることなどがわかる。	■それらを大切にし、安全に気をつけて正しく利用することができる。
子どもの生活圏としての環境に関する内容	(3) 地域と生活	■自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることがわかる。		■それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができる。
	(2) 家庭と生活	■家庭生活を支えている家族のことや自分のできることなどについて考える。		■自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気をつけて生活することができる。
	(1) 学校と生活	■学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かる。 ■通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心をもつ。		■楽しく安心して遊びや生活ができる。 ■安全な登下校ができる。

図 生活科の内容の全体構成